

## 丹沢：四十八瀬川 勘七ノ沢

- ◆日程 2016年6月18(土)
- ◆メンバー L：小林、須田健、佐藤俊、
- ◆天候 晴れ

勘七ノ沢は鍋割山稜と大倉尾根に囲まれた四十八瀬川に流れる丹沢を代表する沢のひとつです。大倉から鍋割山ルートを通り二俣の橋の横でハーネス、ヘルメット、溪流シューズなどを装備して入渓しました。

堰堤を越えしばらく歩くと小草平沢との分岐勘七沢の入り口、7m滝が立ちはだかります。ここでロープを出し須田さんのリード、続いて佐藤、最後に小林さんが登ります。最初の滝を超えると、明るい滝登りが続きます。2番目の滝6mは入り口の滝より取り付き易い感じでした。3番目の滝は直径4mの釜を持つ6~7mの滝です。佐藤はへつりに失敗し釜に転落、首まで水に浸かりました。(水深1.3mだと判明)初夏の沢の清水は気持ち良いです！また少し歩くと2m+8m滝が現れる。一見すると初級者には過酷なルートだが、中腹より人の体が入るぐらいの割れ目(チムニー状)があり、ここで2回目のロープを出し登る事が出来た。

このあと石積み堰堤が続く。堰堤の高さは4m、左右どちらかを見極めて登った。この間、沢の分岐を地図と見比べ、現在位置を把握しながら進みます。地図には事前に磁北線

と水線をいれておき、地図読みの実践練習を行いました。そして大滝12mに到着、先行する遡行パーティが登攀の順番待ちであったので右岸を高巻きました、巻き道は泥壁で慎重にキックステップで登り、落口付近の残置スリングを使って降りた。このとき、スリングに体重を掛けて降りてしまい須田さんに注意された。この癖が治らないと命取りに成りかねない・・・

このあと小滝2~4mが連続するシャワークライミングとなり、ゴルジュ帯では両壁を手で抑えながらステミングで登る場面もあった。小滝群を抜け、堰堤をいくつか抜けると沢も涸れてガレとなり、慎重に鍋割稜を目指した。最後は急峻な樹林帯から登山道にでた。登山道からは視界が良く、相模湾まで見渡せる天気の良い日だった。





勘七ノ沢 最初の滝 F1 7m



沢を最後まで詰め、登山道にでた

CT : 大倉バス停 8:30—西山林道—二俣 10:00—勘七ノ沢 10:15~—鍋割山稜、大丸付近に詰め上げ 15:30—小丸尾根—山岳スポーツセンター—18:00

(記 : 佐藤俊)